

進化経済学会ニューズレター

No.50 August 2021



(撮影：横田宏樹 久能山東照宮階段から望む駿河湾)

進化経済学会事務局
〒572-8508
大阪府寝屋川市池田中町 17-8
摂南大学経済学部
原田裕治研究室宛

- ✓ 第 25 回進化経済学会静岡大会を終えて
- ✓ 2020 年度若手セミナー開催報告
- ✓ 第 25 回進化経済学会静岡大会オンライン理事会議事録
- ✓ 第 25 回進化経済学会静岡大会オンライン総会議事録
- ✓ 第 8 回進化経済学会役員選挙の結果について
- ✓ 第 6 回進化経済学会学会賞並びに第 2 回進化経済学会奨励賞応募要項
- ✓ 進化経済学会内通貨「JAFEE」規約
- ✓ 一般社団法人専修大学デジタルコミュニティ通過コンソーシアムラボラトリー（通称グッドマネーラボ）との相互連携協定について
- ✓ 進化経済学会フェロー規定
- ✓ 【資料】進化経済学会会勢
- ✓ 進化経済学会第 25 回静岡大会総会会計関係報告（【資料 1】【資料 2】【資料 3】）
- ✓ 2020 年度部会報告
- ✓ 進化経済学会京都大会（同志社大学）・オータムカンファレンスのご案内
- ✓ 国際学術誌のなかでの EIER (*Evolutionary and Institutional Economics Review*) の位置

第 25 回進化経済学会静岡大会を終えて

第 25 回静岡大会実行委員会
遠山弘徳、横田宏樹（静岡大学）

2021 年 3 月 27-28 日に第 25 回進化経済学会静岡大会が開催されました。静岡大学における対面での開催をギリギリまで期待しましたが、残念ながら前回大会に引き続き、コロナ禍の状況によりオンラインでの開催となりました。今大会は非対面開催の可能性が高いなかで報告参加申し込みが少ないのではないかと心配しましたが、学会員の皆さまのご協力の下、2 日間でプレナリーセッションが 1 つと 9 つの平行セッションを開催することが出来ました。実行委員会の二人にとっては初めての本大会の開催担当であり、さらに初めてのオンライン学会運営であったゆえに、HP 準備や皆さまへのご案内において不手際があったり、ポスターセッションの発表者の方々にはご迷惑をおかけしてしまいました。学会当日は ZOOM やインターネット回線の不測の事態を危惧していましたが、何事もなく無事に終わることが出来ました。ひとえに学会員の皆様のご協力とご理解があったがゆえであり、実行委員会一同皆さまに厚くお礼申し上げます。

さて、静岡大会のテーマは「現代資本主義の変容と地域の制度設計」でした。日本が直面する地域社会経済の自律性や持続的発展に対して、進化経済学が理論と政策の両側面よりどのような貢献ができるのかということを改めて考えるために、今大会では除本理史氏（大阪市立大学）と水野真彦氏（大阪府立大学）をプレナリーセッションのゲストスピーカーにお迎えし、地域経済学や経済地理学の分野の観点から議論して頂きました。除本氏には現代資本主義の変容に関する研究と相まって注目されるようになった「地域の価値」とその意味についてご報告頂き、水野氏には経済地理学における進化アプローチと制度アプローチの紹介とともにその地域経済政策論的位置付けについて議論して頂きました。地域という空間に関する研究および政策に対して進化経済学の学術的意義を示せるかどうか、これからの進化経済学の持続性にとって重要な課題であることを認識した講演であったと思います。

2 日目には受賞講演がありました。森岡真史会員（立命館大学）が学会賞を、村上弘毅会員（中央大学）が奨励賞を受賞されました。そして、藤本隆宏会員（早稲田大学）と有賀裕二会員（中央大学・名）がフェローに就任され、お二人ご自身の研究史に関する講演がとても印象的でした。

前回大会と今大会、二回連続のオンライン開催となりました。コロナ禍の状況ではまだまだ先が不確実なことばかりですが、一日も早く皆さんの日常生活および研究教育に通常に戻り、本大会および部会においてみなさんとお会いできることを願っております。

2020 年度若手セミナー開催報告

瀬尾崇（金沢大学）

昨年度の若手セミナーは、年次大会の開催に合わせて、初日（2021年3月27日）午前の企画セッションとして開催した。

今回も、昨年度に引き続き「学会活性化」をテーマに設定し、本学会のこれまでの若手セミナーの振り返り、それに続いて他の関連する2つの学会から同じ趣旨の取組みに関する発表、そして最後に参加者で意見交換、という構成で実施した。

学会活性化に関しては、数年前より、現在の運営担当で議論を開始し、昨年度9月に開催されたオータムコンファレンスの際の理事会で、従来の若手セミナーをもっと広く学会活性化に向けた組織づくりをすべきとの問題提起をさせていただいた。その後、年次大会の際の理事会で、一定の方向性を示すことを目指して、若手セミナー運営担当と、さらに会長、副会長、事務局理事に加わっていただき、何度かメールで意見交換を行なった。このような経緯を経て、今回の若手セミナーは開催された。

当日の企画セッションは、年次大会初日の午前中の時間枠をすべて割り当てていただいた。Zoomへの参加者は約35名であった。最初に、瀬尾が、これまでの若手セミナーの開催状況、これまで運営サイドで議論してきた現状の問題点、改革に向けた具体的提案について、問題意識を共有した。続いて、他学会の同じ趣旨の取組みに関してご報告いただいた。経済学史学会、HES、ESHETについては古谷豊氏（東北大学）、組織学会、行動計量学会については稲水伸行会員（東京大学）から、それぞれ詳細かつ示唆に富むご報告をいただいた。どの学会も、本学会と同様に若手育成に関する課題を抱えており、それぞれに工夫を凝らした取組みがされていることが紹介された。お二人の報告に対する質疑では、ポストの問題のような本質的かつ踏み込んだ話題や、学会誌で行われている取組みの詳細、英文投稿指導などの運営面での意見交換が行われた。最後に、司会をお願いした運営担当の一人である吉井哲会員（名古屋商科大学）から、事前にとってくださったアンケート調査についてご報告いただいた。それと同時に行われた全体討論では、経済学史学会のような組織的な運営のあり方、ポスターセッションの位置づけおよび若手向け学会賞の設置、学部生向けの教育など、様々な角度から意見交換が行われた。

今回の企画セッションは、理事会をはじめ学会全体として、若手セミナーだけにとどまらず、今後の学会全体の活性化に向けて問題意識を共有し、具体的な意見交換ができたという点で、大きな成果が得られたように感じた。年次大会という研究発表の場で、このような企画セッションに対してぶち抜きの時間枠を設定してくださった静岡大会実行委員会、非会員でありながらわれわれの報告依頼をご快諾いただいた古谷豊氏には、特に感謝申し上げます。

この企画セッション後に行われた理事会および会員総会では、次年度からさっそく本格的に学会活性化に向けた取組みを実施していくべく、学会活性化に向けた準備委員会を立

ち上げることがオーソライズされた。その後さっそく現在の運営者（稲水伸行会員，吉井哲会員，瀬尾）に加えて，理事会から藤本隆宏会員（早稲田大学）と橋本敬会員（JAIST）に新たに加わっていただき，当面 5 名体制で次年度の大会に向けた具体的な取組み，今後の学会活性化の方向性等について議論を開始したところである。せっかく学会全体として問題意識を共有でき，新たな方向に向けてスタートできたので，今年度，いくつかの成果があげられるよう，議論を進めていきたい。

会員みなさま，今後ともこの取組みに，ぜひご協力ください。よろしく願いいたします。

第25回進化経済学会静岡大会オンライン理事会議事録

日時：2021年3月27日（土）12:00~13:00（予定）

場所：ZOOMによるオンライン開催

出席者：西部忠（会長）、磯谷明德（副会長）、遠山弘徳（大会実行委員長）、浅田統一郎、有賀裕二、池田毅、植村博恭、宇仁宏幸、江頭進、吉地望（監査）、黒瀬一弘、瀬尾崇、出口弘、徳丸宣穂、中原隆幸、鍋島直樹、西洋、橋本敬、服部茂幸、原田裕治、廣瀬弘毅（監査）、福留和彦（会計）、八木紀一郎、吉田雅明、荒川章義（事務局）

欠席（委任状あり）：青山秀明、澤邊紀生、塩沢由典

欠席（委任状なし）：依田高典、佐々木啓明

1. 報告

1. 1 西部忠会長挨拶

西部会長より静岡大会オンライン開催に際して挨拶があった

1. 2 遠山弘徳大会実行委員長より大会開催状況報告

遠山大会実行委員長より大会開催状況報告があった

1. 3 会勢報告

荒川事務局担当理事より資料に基づき会勢報告があった

1. 4 日本経済学会連合報告

池田担当理事より評議会が開催されたものの、資料は後日供される旨の報告があった

1. 5 各部会報告

ニューズレターに掲載のため省略

1. 6 第8回進化経済学会役員選挙の結果について

原田選挙管理委員長より資料に基づき役員選挙結果の報告があった

1. 7 オータムコンファレンスおよび本大会開催日時と会場について

荒川事務局担当理事より次年度のオータムコンファレンスは、2021年9月11日(土)に、次年度本大会は2022年3月26日(土)・27日(日)に同志社大学で開催予定である旨報告があった

2. 議題

2. 1 入退会について

荒川担当理事より、入会希望者及び退会者の提案がなされ、提案通り了承された

2. 2 2019年度会計決算報告

福留会計担当理事が2019年度の会計決算報告を行い、了承された

2. 3 2020年度決算報告

福留会計担当理事が2020年度の暫定的な会計決算報告を行い、了承された

2. 4 2021 年度予算について

福留会計担当理事が 2021 年度の予算案について説明を行い、了承された

2. 5 2021~2023 年度執行部体制について

荒川担当理事より資料に基づき次期執行部体制が提案され、了承された

2. 6 2021~2023 年度 EIER 新体制について

八木委員長 (Editor-in-chief) より EIER 新体制が提案され、了承された

2. 7 進化経済学会賞・奨励賞選考委員会委員長並びに委員の交代について

荒川担当理事より、次年度の学会賞選考委員会委員長並びに委員が、生稲史彦(中央大学)(委員長)(留任)、岡敏弘(京都大学)(留任)、鍋島直樹(名古屋大学)(新任)、西洋(阪南大学)(新任)となることが提案され、了承された。

2. 8 第 6 回学会賞および第 2 回奨励賞の募集要項について

荒川担当理事より、第 6 回学会賞および第 2 回奨励賞の募集要項について提案され、了承された

2. 9 進化経済学会通貨 JAFEE 創設と規約について

西部会長より資料に基づき進化経済学会通貨 JAFEE を創設すること並びにその規約が提案され、了承された

2. 10 一般社団法人専修大学デジタルコミュニティ通貨コンソーシアムラボラトリー (通称グッドマネーラボ) との相互連携協定について

西部会長より資料に基づき一般社団法人専修大学デジタルコミュニティ通貨コンソーシアムラボラトリーと相互連携協定を結ぶことが提案され、了承された

2. 11 若手セミナーの今後のあり方について

瀬尾担当理事より資料に基づき、学会活性化のタスクフォースを立ち上げること、シニアと若手からメンバーを募り、秋の理事会でより具体的な提案を行うことが提案され、了承された

3. その他

文責:事務局担当理事荒川章義

第 25 回進化経済学会静岡大会オンライン総会議事録

日時：2021 年 3 月 28 日（日）13:00~14:00

場所：ZOOM によるオンライン開催

1. 議長の選出

平野泰朗会員を議長に選出した

2. 西部忠会長挨拶

西部会長より静岡大会オンライン開催に際して挨拶があった

3. 遠山弘徳大会実行委員長より開催状況報告

遠山弘徳実行委員長より大会開催状況報告があった

4. 会勢報告

荒川事務局担当理事より資料に基づき会勢報告があった

5. 2019 年度決算報告ならびに監査報告

福留会計担当理事が 2019 年度の会計決算報告を行い、了承された

6. 2020 年度決算中間報告

福留会計担当理事が 2020 年度の暫定的な会計決算報告を行い、了承された

7. 2021 年度予算について

福留会計担当理事が 2021 年度の予算案について説明を行い、了承された

8. 第 8 回進化経済学会役員選挙の結果について

原田選挙管理委員長より資料に基づき役員選挙結果の報告があった

9. 2021~2023 年度執行部体制について

荒川担当理事より次期執行部体制が提案され、了承された

10. 第 6 回学会賞ならびに第 2 回奨励賞の募集について

荒川担当理事より第 6 回学会賞および第 2 回奨励賞の募集要項について提案され、了承された

11. 進化経済学会通貨 JAFEE 創設と規約について

西部会長より資料に基づき進化経済学会通貨 JAFEE を創設すること並びにその規約が提案され、了承された

12. 一般社団法人専修大学デジタルコミュニティ通貨コンソーシアムラボラトリー（通称グッドマネーラボ）との相互連携協定について

西部会長より資料に基づき一般社団法人専修大学デジタルコミュニティ通貨コンソーシアムラボラトリーと相互連携協定を結ぶことが提案され、了承された

13. 次年度開催校について

荒川事務局担当理事より次年度のオータムコンファレンスは、2021 年 9 月 11 日(土)に、次年度本大会は 2022 年 3 月 26 日(土)・27 日(日)に同志社大学で開催予定である旨報告

があった。

14. 2020年度フェローの発表とフェロー就任講演

2020年度フェローとして、藤本隆宏会員と有賀裕二会員が選出されたことが発表され、記念品の盾の贈呈されることが報告された。

フェローに就任した両会員による記念講演が行われた。

15. 2020年度学会賞・奨励賞の発表と記念講演

第5回(2020年度)学会賞が、森岡真史会員の論文 ‘The basic theory of quantity adjustment, ‘Dynamic properties of quantity adjustment process under demand forecast formed by moving average of past demands’, ‘Extensions of model analysis of the quantity adjustment process in several directions’ (Shiozawa, Y., Morioka, M. and Taniguchi, K. eds., Microfoundations of Evolutionary Economics, Springer 2019 のそれぞれ第3章 pp.139-194、第4章 pp.195-255、第5章 pp.257-289) に授与されることが発表され、記念品が贈呈されることが報告された。

また第1回(2020年度)奨励賞が、村上弘毅会員の論文 ‘Existence and uniqueness of growth cycles in post Keynesian systems’, Economic Modelling 75, 2018, pp.293-304, ‘Monetary policy in the unique growth cycle of post Keynesian systems’, Structural Change and Economic Dynamics, 52, 2020, pp.39-49 に授与されることが発表され、記念品が贈呈されることが報告された。

受賞した両会員による記念講演が行われた。

文責:事務局担当理事荒川章義

第 8 回進化経済学会役員選挙の結果について

進化経済学会選挙管理委員会

委員長 原田 裕治

中原 隆幸

西 洋

2020 年 12 月に行われた第 8 回進化経済学会役員選挙の開票結果について、お知らせいたします。

厳正なる開票作業の結果、次期の役員は以下のように決定されました。

会長： 磯谷 明德（九州大学）

副会長： 吉田 雅明（専修大学）

理事（30 名）：

有賀 裕二（中央大学）

浅田 統一郎（中央大学）

荒川 章義（立教大学）

池田 毅（立教大学）

植村 博恭（横浜国立大学）

依田 高典（京都大学）

江頭 進（小樽商科大学）

宇仁 宏幸（京都大学）

黒瀬 一弘（東北大学）

岡 敏弘（京都大学）

澤邊 紀生（京都大学）

小川 一仁（関西大学）

西 洋（阪南大学）

巖 成男（立教大学）

西部 忠（専修大学）

佐々木 啓明（京都大学）

橋本 敬（北陸先端科学技術大学院大学）

塩沢 由典

原田 裕治（摂南大学）

瀬尾 崇（金沢大学）

藤田 菜々子（名古屋市立大学）

瀧澤 弘和（中央大学）

藤本 隆宏（東京大学）

遠山 弘徳（静岡大学）

八木 紀一郎（摂南大学）

徳丸 宜穂（名古屋工業大学）

中原 隆幸（阪南大学）

鍋島 直樹（名古屋大学）

服部 茂幸（同志社大学）

廣瀬 弘毅（福井県立大学）

以上

第6回進化経済学会学会賞並びに第2回進化経済学会奨励賞応募要項

2021年3月27日 進化経済学会学会賞選考委員会
生稲史彦（委員長）、岡敏弘、鍋島直樹、西洋

第6回進化経済学会学会賞並びに第2回進化経済学会奨励賞の選考対象となる会員の著作を以下の要項で募集します。この賞の選考についての詳細は、学会ホームページに掲載されている「選考にかんする細則」によることとされていますので、応募の際にはそれをご参照ください。多数の応募をお待ちします。

1. 選考対象

募集締め切り時を基準に過去3年以内（今回の場合、2018年5月1日－2021年4月30日）に公表された会員の著作（論文、著書）。

なお、上記の期間内に *Evolutionary and Institutional Economics Review* に掲載された上記の応募資格をみたく Article および Note、および昨年度応募し今年度も応募期間に合致する著作は自動的に選考対象となります。

2. 応募方法

自薦または他薦によります。応募者または推薦者は、推薦対象の著作2部（コピーあるいは電子ファイルも可）を「推薦理由書」とともに選考委員会に送付します。

「推薦理由書」は、学会のホームページからもダウンロードできます。
学会賞・奨励賞とも推薦書は同じです（45歳以下の人は学会賞・奨励賞の両方で審査を行います）。

3. 受付期間と応募宛先

2021年4月1日から4月30日（締切日消印有効）
電子応募もできますが、必ず受け取りの確認を得てください。

〒〒112-8551

東京都文京区春日 1-13-27

中央大学経営戦略研究科

生稲史彦研究室内「進化経済学会学会賞選考委員会」宛て

あるいは fikuine.10n@g.chuo-u.ac.jp 宛て

4. 公表・授賞

2021年のオータムコンファレンスで公表し、翌年3月の会員総会で賞状と副賞（賞金）を与えます。

進化経済学会学会賞並びに進化経済学会奨励賞推薦理由書

年 月 日 受付 受付番号

推薦者 (連絡メアド)	
推薦著作*	公表形態 ()、公表時期 (年 月)
著者 (連絡メアド) *	推薦著作公表時会員籍があったかどうか (有・無) **
推薦理由	
推薦著作の評価 にあたって留意 すべき点	

* 対象となる著作の要件は「学会賞規程」および「選考に関する細則」を参照。

**この情報は、記載を省略してかまいません。

以下は進化経済学会奨励賞の審査対象となる場合のみ記載してください。

主たる著者 (複数も 可)と生年 月日	
------------------------------	--

進化経済学会内通貨「JAFEE」規約

2021年3月27日

第1条 学会内通貨発行の目的

進化経済学会の運営は、会費による経費支出に加え、英文ジャーナル EIER の編集・査読（編集長、編集員、副編集委員、査読者）、本大会、オータムコンファレンス等の大会実行運営員会（組織委員会委員長、同副委員長等）、理事会（会長・副会長、理事）、事務局長（事務局長、事務局員等）、特別シンポジウム・各種部会の企画・部会長等に関わる各種サービスを有志会員が提供することにより成り立っている。

こうした無償ボランティアを可視化して明確な価値評価を行い、インセンティブを与えることで、そうした活動への参加を促進するとともに、相互扶助を通じて会員間交流がより活発にすることを目的として進化経済学会内通貨を創設する。

つまり、本通貨創設の目的は次の3点である。

- 1) ボランティアの可視化による価値評価とインセンティブの形成
- 2) ボランティアへの参加促進と負担平準化
- 3) 相互扶助を通じた会員間交流の活性化

第2条 学会内通貨の名称及び価値

学会内通貨の名称を「JAFEE」（本学会の英語名 Japan Association for Evolutionary Economics の略称）とし、1「JAFEE」を1円相当とする。ただし、円への換金はできない。

第3条 発行・利用、赤字限度額、準備金、監査

1. 学会内通貨「JAFEE」は赤字を許容する口座型地域通貨として発行・利用される。
2. 進化経済学会の事務局、大会実行委員会、学会員が口座を持ち、各々が有する赤字限度額（発行上限）の範囲内で取引を行うたびに通貨が発行ないし相互相殺される。
3. 進化経済学会事務局の赤字限度額（発行上限）は1,000,000JAFEEとする。ただし、当面5年間の発行上限は500,000JAFEEとする。
4. 第5条規定の大会参加費や大会懇親会費のJAFEE支払を事務局が円で充当するため、赤字限度額の50%の円を準備金として積み立てる。
5. 進化経済学会は年度末に学会内通貨「JAFEE」の発行・利用に関する年間報告書を作成し、監査を受ける。

第4条 学会業務、学会内通貨の発行・利用

進化経済学会の以下の学会業務を行なった会員は所定額のJAFEEを事務局に請求できる。ただし、業務終了後1年以内に請求を行わなければ、その請求権を放棄したものとみなす。

1. 学会英文ジャーナル "Evolutionary and Institutional Economic Review" の査読対象論文1編にたいするアソシエイトエディターの業務（投稿者・査読者への依頼、論文のメジャー／マイナー修正、却下に伴う通信、報告執筆を含む）一回につき2,000JAFEE、レフェリーのすべての業務（査読報告の

執筆、修正された論文への査読報告の執筆) 一回につき 2,000JAFEE。

2. 大会実行委員会業務を行った者(大会実行委員会委員長)に 5,000JAFEE。
3. 事務局はその他の業務と報酬額を随時決めることができる。

第5条 学会通貨の利用

1. 学会内通貨「JAFEE」を利用することができるのは学会員のみとする。
2. 学会員は、株式会社ジィ・シィ企画が運営・管理する電子通貨ウォレット「C.C.Wallet」を用いて、「JAFEE」の受け取りや支払いを行い、その利用規定に従うものとする。
3. 学会員は、「C.C.Wallet」を用いて、「JAFEE」を大会参加費や大会懇親会費の支払いに充てることができる。ただし、大会参加費や懇親会費の支払は一回1人分を限度とし、その際の最小単位を1,000JAFEEとする。
4. 学会員は、「C.C.Wallet」を用いて、学会員同士で自由に「JAFEE」の譲渡・取引を行うことができる。
5. 学会員の「JAFEE」口座の赤字限度額(発行上限)は1,000JAFEEとする。

第6条 本規約の改廃

本規約の改廃は理事会で審議決定することとする。

一般社団法人専修大学デジタルコミュニティ通貨コンソーシアムラボラトリー（通称グッドマネーラボ）との相互連携協定について

進化経済学会
2021年3月27日

進化経済学会と専修大学デジタルコミュニティ通貨コンソーシアムラボラトリー（通称グッドマネーラボ）は、よりよい経済社会の制度設計や政策を推進することを目的として相互連携協定を締結し、以下の条件の下、両団体が提供しているサービスを両団体の会員に相互供与することに合意する。

1) グッドマネーラボが実施しているセミナー（研究員が講師を輪番で担当、年3~4回会員・専修大教職員・学生無料、非会員有料（500円））とワークショップ（研究員・会員有志が講師を担当、年数回、会員・非会員無料）に、進化経済学会会員は聴衆として無料で参加できる。ただし、グッドマネーラボのセミナーやワークショップの参加者の最大容量を超える見込みがある場合は、参加できないことがある。また、進化経済学会会員は理事就任、総会参加、各種プロジェクト運営等、グッドマネーラボの企画運営に参加することはできない。

2) 進化経済学会が実施している定期的学会（9月のオータムコンファレンスおよび3月の本大会の会員参加費1000円（対面学会）、無料（オンライン学会））および特別シンポジウム、各種自主研究会に、グッドマネーラボ会員（個人会員は本人、団体会員は団体所属個人5名まで）は無料で聴衆として参加できる。ただし、進化経済学会の大会、コンファレンス、シンポジウムの参加者の最大容量を超える見込みがある場合は、参加できないことがある。また、グッドマネーラボ会員は、理事就任、総会参加、学会、特別シンポジウム、各種部会（研究会）等の運営やそこでの報告を行うことはできない。また、受賞授与、フェロー選考の対象にならない。

3) 両団体が提供する各種サービスは会員・非会員向けの価格体系や提供頻度が異なるものの、両団体の交流を促進し相互利益を拡大する観点から、以上のような条件設定を行うことに同意する。また、サービスの相互供与を実施する目的のためにのみ両団体の会員名簿等の個人情報相互に利用できるものとする。上記条件の変更については両者の合意が必要となる。

進化経済学会フェロー規定

制定：2015年3月21日 理事会

改正：2019年3月16日 理事会

第1条 本学会は、本学会会則第2条（学会の目的）にそった理論および実証研究、学会運営、普及・教育活動において顕著な貢献をおこなった会員を理事会の決定により、フェロー（JAFEE Fellow）として表彰する。

第2条 フェローは会員である限り、理事でない場合でも理事会に出席して学会活動に対して参考意見を述べることができる。

第3条 フェロー候補者の推薦をおこなうことができるのは理事2名で、推薦理由を記した推薦書を会長に提出してこれをおこなう。

第4条 候補者の推薦を受けた会長は、推薦者以外の理事3名からなる選考委員会を設置し、フェロー候補者としての適否を検討させる。

第5条 選考委員会が第3条で推薦された会員をフェロー候補者として適格と判断した場合、その会員を理事会にフェロー候補者として推挙する。理事会はそれについて審議をおこなってフェローとしての表彰を決定する。

第6条 理事会はフェロー表彰の該当者に通知をおこない、学会のホームページに公示する。

第7条 本規程の改廃は理事会の決議によって行う。

付則

1. 本規程は2015年3月21日から施行する。
2. 改正規定は2019年3月16日から施行する。

【資料】進化経済学会会勢

2020年9月11日時点

進化経済学会会勢状況	
個人会員	351 (入会4休会4含む)
個人終身正会員	15
院生会員	46 (休会3含む)
賛助会員/団体	0
賛助会員/特別	0
招待会員	2
個人準会員	1
415	

2021年3月24日時点

進化経済学会会勢状況	
個人会員	354 (入会2休会4含む)
個人終身正会員	15
院生会員	45 (休会3含む)
賛助会員/団体	0
賛助会員/特別	0
招待会員	2
個人準会員	1
417	

進化経済学会 第25回静岡大会 総会会計関係報告

2021年3月28日(日) Zoom オンライン総会
会計担当理事・福留和彦

1. 2019年度(令和1年度)収支計算報告等

資料1「監査済2019年度収支計算書決算報告」参照

2. 2020年度収支計算中間報告(4/1/2020~2/28/2021)

資料2「2020年度収支計算書中間報告」参照

2-1. 収入側(◆印は3/31見込)

会費収入：3,275,000円(2/28時点)

大会収入：オータム◆50,000円、本大会◆150,000円

2-2. 支出側(◆印は3/31見込)

大会費：オータム◆400,000円、本大会◆700,000円

英文誌編集刊行費(シュプリンガー・ジャパン)：0円

通信費(会計監査書類の郵送代)：1,560円

事務用品費(楯代)：◆36,696円

謝金(サーバー代等)：5,568円

送金手数料(出金口座からの各種振込、入金口座から出金口座への移金)：6,448円

事務委託費(株)国際文献社への支払)：592,928円

部会補助費(申請無)：◆0円

経済学会連合会費：◆35,000円

学会賞：150,000円

次期繰越金(2020年度繰越金)：◆4,911,231円

*参考：2019年度繰越金：3,258,862円

2-3. 貸借対照表

資料2「貸借対照表(2021年2月28日現在)」参照

3. 2021年度予算

資料3「進化経済学会2021年度予算」参照

3-1. 収入

会員収入：2020年度見込に基づいているが、会勢拡大による会費収入の増額が求められる

大会収入：2020年度静岡大会の結果が出ていないが、前年度(2019年度仙台大会)実績を踏まえて
オータム50,000円、本大会150,000万円としている

新項目：利用料(進化経済学ハンドブック)および印税(シュプリンガー・モノグラフシリーズ)

3-2. 支出

大会費：2020年度と同額を維持

英文誌刊行費：2019年度と同額へ

通信費：2020年度と同額を維持

事務用品費：2020年度と同額を維持

謝 金 : 2020 年度と同額を維持
送金手数料 : 2020 年度と同額を維持
事務委託費 : 2020 年度と同額を維持
部会補助費 : 2020 年度と同額を維持 (若手セミナー分含む)
学会賞 : 2020 年度と同額を維持
経済学会連合会費および予備費 (資料 3 【注記】 支出側 3 を参照) は 2020 年度と同額を維持

【資料 2】

2021年3月27日

進化経済学会 2021年度予算
(2021年4月1日 ~ 2022年3月31日)

(単位:円)

収入予算		支出予算	
	予算額		予算額
2020年度からの繰越(見込)	4,911,261	大会費	1,100,000
		(内訳)	
		オータムコンファレンス	400,000
		本大会	700,000
		英文誌編集刊行費	2,200,000
会費	2,919,000		
(内訳)			
正会員 (2020年度見込)	2,750,000	通信費	20,000
終身正会員 (同上)	50,000	事務用品費	80,000
院生会員 (同上)	115,000	謝金	20,000
準会員 (同上)	4,000	送金手数料	20,000
賛助会員 (同上)	0		
		事務委託費	650,000
大会収入	200,000		
(内訳)		部会補助費	150,000
オータムコンファレンス	50,000	学会賞	100,000
本大会	150,000	経済学会連合会費	35,000
(2020年度見込)			
書籍売却代 (2020年度見込)	0	予備費	100,000
定期購読料 (同上)	0	小計	4,475,000
利用料 (同上) 進化経済学ハンドブック	6,000		
印税 (同上) シュプリンガー・モノグラフS.	28,000	2021年度への繰越	3,589,261
総計	8,064,261	総計	8,064,261

【注記】

収入側

1. 会費収入は前年比17,000円増
2. 大会収入は前年度(2020年度)見込みと同額を計上
3. 新項目として、利用料(進化経済学ハンドブック)および印税(シュプリンガー・モノグラフシリーズ)を設置

支出側

1. 大会費は前年度(2020年度)予算と同額を計上
2. その他項目は、決算に大きな変化がないため、前年度予算額を計上する

2020 年度部会報告

■ 現代日本の経済制度部会

2020 年度第 5 回現代日本の経済制度部会（制度と統治の部会と共催）

日時：2021 年 2 月 28 日（日）14:00～17:00

場所：ZOOM 遠隔会議

テーマ：『『トランプイズム』の歴史的・経済的背景を問う』

報告者：

- ・櫻井公人（立教大学）『『アメリカ第一主義』のゆくえ：国内の格差・分断とアメリカの対外経済政策』
- ・服部茂幸（同志社大学）『格差と停滞のアメリカ経済：グレート・リセッションからトランプノミクスまで』

2020 年度第 4 回現代日本の経済制度部会

日時：2020 年 11 月 28 日（土）13:30～18:00

場所：ZOOM 遠隔会議

テーマ：「現代資本主義の制度・進化・多様性 4」

報告者：

- ・宋磊（北京大学）『The Hidden Structure of Advantage of Economic Backwardness and The Competition Cross Different Ownership in China』
- ・内橋賢悟（横浜国立大学）『契約の不完備性と「制度移植」の制度経済学分析：S. ボウルズの社会科学の応用可能性』
- ・磯谷明德（九州大学）・植村博恭（横浜国立大学）『制度と進化の政治経済学：出版にむけて』

2020 年度第 3 回現代日本の経済制度部会

日時：2020 年 9 月 20 日（日）13:30～17:30

場所：ZOOM 遠隔会議

テーマ：「現代資本主義の制度・進化・多様性 3」

報告者：

- ・池田毅（立教大学）『失業，労働規律，有効需要』
- ・田原慎二（千葉商科大学）『マクロ経済分析における多部門性について』
- ・西洋（阪南大学）『技術変化，所得格差，経済成長：動学的二部門カレッツキ・カルドア・アプローチ』

2020 年度第 2 回現代日本の経済制度部会

日時：2020 年 7 月 11 日（土）13:30～17:30

場所：ZOOM 遠隔会議

テーマ：「現代資本主義の制度・進化・多様性 2」

報告者：

- ・山田鋭夫（名古屋大学・名誉）『市場経済と市民社会』

- ・藤田菜々子（名古屋市立大学）「資本主義の終焉」論と北欧型資本主義の可能性」
- ・大熊一寛（環境省・東北大学）「二部門カレッキアンモデルによる環境・社会政策と社会的共通資本の分析」

2020 年度第 1 回現代日本の経済制度部会

日時：2020 年 5 月 16 日（土）9:30～13:00

場所：ZOOM 遠隔会議

テーマ：「現代資本主義の制度・進化・多様性 1」

報告者：

- ・原田裕治（摂南大学）『制度と進化の政治経済学』出版に向けて」
- ・磯谷明德（九州大学）「進化経済学における「制度」問題を再論する」
- ・植村博恭（横浜国立大学）「進化的制度分析とマクロ経済分析をいかに統合するか：レギュレーション理論とポスト・ケインジアン理論の補完的発展に向けて」

文責：西洋（阪南大学）

■ 制度と統治部会

1. 第 1 回 進化経済学会・「制度と統治」部会（制度とイノベーションの経済学部会と共催）

日時：2021 年 1 月 31 日（日曜日）13:00～16:00

場所：Zoom オンライン会議

テーマ：北川巨太・比嘉夏子・渡辺隆史著 『地道に取り組むイノベーション』（2020、ナカニシヤ出版）
合評会

2. 第 2 回 進化経済学会・「制度と統治」部会

日時：2021 年 2 月 28 日（日曜日）14:00～17:00

場所：Zoom オンライン会議

テーマ： 「「トランプイズム」の歴史的・経済的背景を問う」

プログラム：

- ・14：00～14：50 第一報告 櫻井公人（立教大学経済学部）

「『アメリカ第一主義』のゆくえ—国内の格差・分断とアメリカの対外経済政策」

**休憩：10 分

- ・15：00～15：50 第二報告 服部茂幸（同志社大学商学部）

「格差と停滞のアメリカ経済—グレート・リセッションからトランポノミク

スまで」

**休憩：10 分

- ・16：00～17：00 質疑応答・ディスカッション

文責：巖成男（立教大学・部会事務局）

■ 制度とイノベーションの経済学部会

当部会では「制度と統治」部会と共催で、2021年1月31日（日曜日）に部会研究会をオンラインで行った。内容は、北川亘太・比嘉夏子・渡辺隆史『地道に取り組むイノベーション』（ナカニシヤ出版）の合評会であった。生稲史彦会員（中央大学・経営学）と梶丸岳氏（京都大学・文化人類学）によるコメントと、著者である北川亘太会員（関西大学）のリプライに続き、参加者による活発な討論が行われた。経済学、文化人類学の研究者と経営者による共著であるという本書の性格を反映して、異分野からの視点が交錯する討論が行われ、制度とイノベーションの経済学の進展にとって非常に刺激に富む研究会であった。

文責：徳丸宜穂（名古屋工業大学）

■ 観光学研究部会

2020年度観光学研究部会はZoomを用いて以下の研究会を行った。

第43回研究会 2020年7月26日（日）

【招待講演】谷口功一（東京都立大学）「夜の公共圏・スナック／北陸～コロナ下の「夜の街」のゆくえ」

第44回研究会 2020年9月17日（木）

【招待講演】高木亨（熊本学園大学）「北陸の醤油、甘いかしょっぱいか」

第45回研究会 2020年11月26日（木）

【特別講演】森晃洋（南相馬市博物館）「中村藩の浄土真宗門徒の移民政策」

【招待講演】中村洋介（福島大学）「過去の地震活動の繰り返しで形成された北陸の風景」

すべての研究会はサントリー文化財団による助成を受けている。

また静岡大会においては企画セッション「地域システムとしての経済、政治、そして観光」を開催した。

（文中敬称略）

文責：井出明（金沢大学）

進化経済学会京都大会（同志社大学）・オータムカンファレンスのご案内

今年度の全国大会では、「混迷の世界と経済学」を全体テーマとし、これからの政治・経済と経済学を様々な角度から考えていきたいと考えています。また9月のオータムカンファレンスでは、混迷と分断の世界の一つの現象としてとくに「米中対決」を取り上げます。

2008年に起きた世界金融危機は1930年代の世界大恐慌以来の金融危機でした。経済危機によって既成政治に対する不信が高まり、トランプ大統領の誕生やイギリスのブレグジットなど、これまでの常識では考えられないことが起きています。2020年から生じた新型コロナウイルスの世界的流行によって、世界の混迷は一層深まったと言えます。

1930年代の世界大恐慌後の「混迷の世界」は、自由放任とグローバリゼーションの時代を終わらせ、代わって経営者資本主義、福祉国家、需要を管理する国家など、戦後の経済成長を支える新しい資本主義のシステムを作り出しました。ケインズ革命が起きたのもこの時代です。

2008年の世界金融危機も、米国中心の新自由主義と金融主導のグローバリゼーションの時代を終わらせ、金融危機後には、国際的な資本移動も貿易も以前ほど大きな役割を持たなくなりました。しかし、それに代わる新しい資本主義はまだ生まれていないし、1930年代のケインズ経済学に相当する新しい経済学と経済政策もまだ姿を現してはいません。今後10年以内にGDPの米中逆転が起きることが確実視されています。こうした世界の政治経済の大変動にたいして、経済学がどのように応えるのかが問われていると言えるでしょう。

今年度の全国大会とオータムカンファレンスは同志社大学の今出川キャンパス（京都市）での開催を予定しておりますが、新型コロナウイルスの完成状況次第で開催方式に変更があるかもしれません。多数の会員の参加を期待しております。

京都大会実行委員会：服部茂幸（同志社大学）、田淵太一（同志社大学）

オータムカンファレンス「混迷の世界と経済学——米中対決」

日時：2021年9月11日（土）

場所：同志社大学今出川キャンパス

年次大会「混迷の世界と経済学」

日時：2022年3月26～27日

場所：同志社大学今出川キャンパス

国際学術誌のなかでの EIER (*Evolutionary and Institutional Economics Review*) の位置

EIER 誌 Coordinating Editor 八木紀一郎

進化経済学会の機関誌 EIER は、もともとオープンな英文国際誌として出発したが、2015 年から Springer 社（現在 Springer Nature 社の日本法人 Springer Japan）との契約で出版される本格的な国際学術誌となった。そうすると、EIER 誌についても、競争の激しい国際的学術誌の世界でどれほどの知名度・影響力・存在価値をもつ雑誌かということが問題になる。Springer 社の方からも、つねづねそのように言われ続けている。

そこで、今回は EIER 誌の掲載論文のダウンロード件数をもとに、EIER 誌の「影響力」を他の雑誌と比較してみることにした。それが以下の表である。

類似国際学術誌の比較								
誌名 (略称)	関係学会 (略称)	編集者	出版社	Volume	Impact Factor (5年平均)	2020年ダウンロード件数	Abstracting & Indexing	誌名
EIER	JAFEE	K. Yagi(H. Uemura)/ Y. Anuka/T. Fujimoto	Springer	18		29,326	15	Evolutionary and Institutional Economics Review
JEE	ISS	U. Cantner/ B. Verspagen	Springer	31	1.506	135,813	39	Journal of Evolutionary Economics
REPE	EAEPE	W. Elsner	Springer	2		23,828	12	Review of Evolutionary Political Economy
JEC		S-H. Chen, G. Iori, T. Lux	Springer	16	1.478	32,379	27	Journal of Economic Interaction and Coordination
JIE		G. Hodgson	C.U.P.	17	1.827			Journal of Institutional Economics
JER	Jap. Econ. Ass.	H. Ichimura	Springer	72	0.519	21,029	25	The Japanese Economic Review
JEI	AEE	W. Waller	Taylor & Francis	55	0.795	71,000	16	Journal of Economic Issues
RRPE	URPE	E. Arvidson	Sage	53	0.798	87,322	15	Review of Radical Political Economics
JPE		N. Yokokawa	Taylor & Francis	47		8,000	17	The Japanese Political Economy

EIER 誌は、まだ IF (インパクトファクター) の計算対象になっていないのが残念だが、ダウンロード件数でいえば 2020 年 29,326 件とそこそこの数字に達している。進化経済学の先輩雑誌である *Journal of Evolutionary Economics* (JEE) に比べると四分の一に過ぎないが、最近これも Springer Journal となった日本経済学会の *The Japanese Economic Review* よりも、あるいは、これも 2 年前に EAEPE (欧州進化的政治経済学会) によって創刊されたばかりの *Review of Evolutionary Political Economy* よりもダウンロード件数で上回っている。

学会をベースとした異端派学術誌という点で EIER 誌と性格的に似ているのは、米国の進化経済学会 (AEE) と結びついている *Journal of Economic Issues* と急進的政治経済学会 (URPE) の *Review of Radical Political Economy* であろう。両誌のダウンロード件数はさすがに年間 7~8 万件に達しているが、IF は 0.8 弱とその割に低い。異端派ジャーナルとして両誌が疎外されているからだろうか。

ジェフ・ホジソンが Cambridge Univ. Press と組んで創刊した *Journal of Institutional Economics* は、ダウンロード件数が公開されていないが、IF は結構高い。ホジソンは、J・サールの “What is institution?” を創刊号巻頭論文にするなど、巧みな編集でこの雑誌 JII を制度経済学の prestige journal に押し上げている。EIER 誌に協力してもらっている台北の国立政治大学の Shu-Heng Chen、ドイツのキール大学の Thomas Lux らが編集している *Journal of Economic Interaction and Coordination* は、EIER 誌とほぼ同

年齢の Springer Journal だが、JEE に近い IF を獲得しているのは立派だ。

ダウンロード件数は、印刷された紙冊子版による影響を排除している指標であることには注意が必要である。しかし、現代の国際インターネット社会ではアクセスが限定される冊子版よりも全世界的なアクセシビリティをもつオンラインの方が知名度・影響力としては重要になってきているだろう。

雑誌の知名度をあげ、影響力を増すには、掲載論文のアブストラクトを紹介し、インデックスに加えてくれる国際サービスを得ることが重要である。EIER 誌は現在、15 のサービスを得ているが、これはもう少し増やす努力が必要かもしれない。

先に、EAEPE が *Review of Evolutionary Political Economy* を創刊したばかりだと書いたが、これは Shiozawa/Morioka/Taniguchi(2019) *Microfoundations of Evolutionary Economics* の Marc Lavoie による書評を第 1 巻で掲載するなど、EIER と志向が似ている。なお、本学会の横川信治会員が再興に取り組んでいる *The Japanese Political Economy* (Taylor & Francis) も順調に刊行されているので、今後はダウンロード件数も次第に増えていくことであろう。

IF や知名度だけでいえば、経済学の国際学術誌の世界でも、一流誌とか、5 大ジャーナルとかいう風評があるようだが、それはさておく。私たちの関心のある領域でも、EIER は競争、あるいは切磋琢磨のなかにある学術メディアである。それはいいことだ。世界の各地から新しい理論動向が生まれている。時間的な余裕があれば、この文章であげた学術誌のサイトなどをサーフィンして、面白い動きがないかどうかを探るのも一興であろう。

編集後記

配信が遅れていましたニューズレター2021 春夏号、ようやく皆さまにお届けすることが出来ました。今回は50号という記念すべき回ですが、編集者の能力不足で特集を組むことが出来ませんでした。

さて、本大会だけでなく、オータムカンファレンスや部会など学会活動にもコロナ禍は大きな影響を及ぼしています。オンライン方式というツールは物理的な距離をなくし、研究会などへの参加をより容易にしたことによって、研究現場にも新たな可能性を生み出しました。ただ一方で、やはり対面で会い話し議論をする、その雰囲気の中だけでしか伝わらないものがあることもつくづく感じています。静岡大会の「若手セミナー」では、学会活性化にとっての若手研究者の育成や参加の重要性について活発な議論が展開されました。私もそうであったように、学会や部会研究会への参加は先輩研究者から多くの刺激や知的好奇心を受け取ることができる重要な機会です。オンラインは学会活動を確かに便利にしましたが、一方でこれまでに積み上げてきた活動の大切さを再認識しました。

今の状況から進化経済学会としての活動はどのような方向へ進んでいくのか。次回の51号で企画している「ニューズレター50号特集」にはどうか、と考えているところです。

ニューズレター編集担当：横田宏樹（静岡大学）